情報公開文書

2023 年 9 月 12 日作成

Ver.1.0

上顎原発扁平上皮癌の予後予測因子に関する臨床統計学的検討

1、研究の目的と意義

世界の口腔癌の患者数は全癌中の 2%であり、病理組織学的に口腔がんの 90%以上は扁平上皮癌です。上顎に発生した口腔扁平上皮癌はまれであり、口腔扁平上皮癌全症例の約 6-7%を占めています。上顎は鼻腔、上顎洞、翼状突起、頭蓋底、下顎骨、咀嚼筋隙などの複雑な解剖学的構造に取り囲まれているため、上顎原発扁平上皮癌がこれらに近接または浸潤すると、明確な切除マージンを決めることは困難になることがあり、不完全な切除によって、特に脳神経の周囲や咀嚼筋の周囲から再発が生じることがあります。本研究は、上記の問題点を解決するために上顎原発扁平上皮癌の原発再発や頸部リンパ節再発、遠隔転移、そして治療経過についての因子を評価し、今後同様の疾患に罹患した患者の生存率の向上を目的としているため非常に臨床的意義が高いと考えられます。

2、対象となる患者さん

【選択基準】

① 診断時に 18 歳以上の患者さん
② 2008 年 7 月から 2022 年 5 月までの間に長崎大学病院口腔外科を受診し、上顎原発の口腔扁平上皮癌と診断され手術療法を行った患者さん
③ 上顎原発の扁平上皮癌の既往がない患者さん
④ 原発部位ならびに頸部、また、他のがん種に対する治療も含めて化学療法、放射線療法、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬いずれも治療歴がない患者さん
⑤ 上顎原発扁平上皮癌に対する術前治療が行われていない患者さん
⑥ 術後、定期的な診察が可能な患者さん

【除外基準】

① 活動性の重複がんを有する患者さん
② その他、担当医が本研究の対象として不適切と判断した患者さん

3、研究の方法

長崎大学病院口腔外科に受診し、上顎原発扁平上皮癌と診断され手術療法を行った患者を抽出し、【4 研究で用いる情報】に示す項目に基づき予後因子を明らかにします。

4、研究に用いる情報

・患者背景：診断時年齢、性別、PS、既往歴、喫煙歴、飲酒歴
・治療開始日（初診日）、治療終了日（手術終了日または術後補助療法終了日）
・UICC 第 8 版に基づく cTNM 分類、pTNM 分類、病期(stage)分類

・病理組織学的所見
・治療経過
本研究は診療録より上記の情報の提供を受けて実施する研究です。
本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2024 年３月 31 日

6、外部への情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。
≪研究責任者≫
長崎大学病院　口腔外科　三浦 桂一郎

8、お問い合わせ先

長崎大学病院　口腔外科　三浦 桂一郎
〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号
電話：095（819）7698　　FAX　095（819）7700

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）
苦情相談窓口：医療相談室　095（819）7200
受付時間　　：月～金　　8：30～17：00（祝・祭日を除く）